

提 言 書（素案）

1 社会の持続的な発展を牽引する力の定着について

《背景》

- ・ AI 技術の活用やDXの推進で多くの仕事が代替される可能性が指摘されるなど、未来の予測が困難な時代にあつて、子どもたちが社会をたくましく生き抜く力を育むことが重要となっている。
- ・ グローバル化が進み、社会が複雑化する現代においては、語学力だけではなく、多様な価値観を受け入れる姿勢や、円滑なコミュニケーション能力を育むことが重要となっている。

このような背景の下、次のとおり提言する。

《提言》

（１）家庭・地域・企業等と連携したキャリア教育の推進について

○ 社会的・職業的自立に向けて必要な力を育成すること。

- ・ AI の台頭などにより、社会が劇的に変化することを見据え、既存の職業観にとらわれず、自ら課題を発見し、事業を創造する力（アントレプレナーシップ）を育む教育を地域や企業等と連携し、小・中・高において体系的に導入する必要がある。

○ 多様な情報を活用する資質・能力を育成すること。

- ・ AI 等の新たなデジタル技術の導入に際しては、その利便性のみを強調するのではなく、個人情報保護等のリスク管理や情報倫理に関する指導を強化する必要がある。
- ・ デジタル教育を進めるだけではなく、思考力や創造性を育む上で重要となる読書や筆記、体験活動といったアナログな手法の価値も正しく伝え、児童生徒が目的や状況に応じて最適な学び方を選択できる能力の育成に積極的に取り組む必要がある。

（２）デジタル技術や地域資源を活用した専門教育の推進について

○ 地域を担う人材と企業が共に成長するための仕組みを構築すること。

- ・ 生徒がより高いレベルの技術を学べる環境を整え、同時に県内企業の技術向上につながるリスクリングの仕組みを構築するなど、両者への支援を一体的に進めることで、生徒と企業が共に成長する好循環を生み出す必要がある。

（３）グローバル化に対応した外国語教育の推進と多文化共生社会の構築について

○ **コミュニケーション能力の強化と多文化理解の深化を図ること。**

- ・ 英語の知識や語彙量だけでなく、間違いを恐れずに他者と関わろうとする態度や、伝えたい内容を正確に表現する力を育む取組を、より一層推進していく必要がある。
- ・ グローバルな視野を持つ人材を育成するため、社会全体で失敗を許容し、挑戦を後押しする文化を醸成する必要がある。
- ・ 児童生徒の国際感覚を育むため、秋田ならではの特色を活かし、英語圏に限らない多様な言語や文化に触れる機会を積極的に設ける必要がある。

2 生きる力をはぐくむ確かな学力の育成について

《背景》

- ・ G I G Aスクール構想により、教育における I C T活用が広がる中、これまでの実践と I C Tを最適に組み合わせながら、「秋田の探究型授業」を更に充実させることが重要となっている。
- ・ 変化の激しい社会を迎える中、子どもたちが自らの可能性を最大限に発揮しながら生きる力を育むためには、一人ひとりの状況に応じた個別最適な学びが重要となっている。
- ・ 本県においても、全国的な傾向と同様に教員採用試験の志願倍率が低い水準にあり、教員のなり手不足が深刻な課題となっている。

このような背景の下、次のとおり提言する。

《提言》

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進について

○ 「共感力」、「想像力」を育む取組を強化すること。

- ・ 「秋田の探究型授業」において、A I やデジタル技術にはない人間固有の能力である「共感力」、「想像力」の育成を積極的に取り入れる必要がある。

○ 教員の I C T活用指導力の向上に向けた支援を行うこと。

- ・ 教員の役割を技術指導の専門家としてのみ捉えるのではなく、生成A I の倫理的な使用方法や情報リテラシーについて生徒と議論を交わし、探究的な学びに導くなど、ファシリテーターとしての能力を高める研修を充実させる必要がある。
- ・ 生徒が教員に I C T活用について提案するなど、双方向で学び合う協働的な研修モデルの導入について検討する必要がある。
- ・ I C Tツールの使い方だけではなく、I C Tをどのように学びに融合させるかといった「主体的・対話的で深い学び」の考え方を教員研修にも取り入れ、本質的な議論を行うことも必要である。

○ 児童生徒一人ひとりの特性に応じた多様な教育の選択肢を設けること。

- ・ 変化の激しい社会で活躍できる多様な人材を育むには、学業成績という単一の指標にとらわれず、児童生徒一人ひとりの興味・関心や得意なことに価値を見いだし、それを伸ばすための多様な教育の選択肢を設ける必要がある。

(2) 持続可能で質の高い学びを実現する教育体制の推進について

○ 教員の安定的な確保に向けた対策を講じること。

- ・ 教員不足という喫緊の課題に対応するため、例えば全国の大学生が県内の学校で学習支援や部活動支援等を通じて教員の魅力を体験できるインターンシップ制度の創設など、従来の発想にとらわれない新たな取組の検討が必要である。

3 全ての子どもたちの健やかな心身を育む教育環境の構築について

《背景》

- ・ 部活動の地域展開を推進するに当たり、活動場所への移動手段の確保や教員の業務範囲の明確化などが課題となっている。
- ・ 不登校児童生徒数が全国と同様に増加傾向にある状況において、学校復帰のみを目標としない、社会的自立に向けた多様な支援が求められている。

このような背景の下、次のとおり提言する。

《提言》

(1) 一人一人の成長と発達を支える体育活動の充実と健康教育の推進について

○ 部活動の地域展開に向けた取組を強化すること。

- ・ 部活動の地域展開を円滑に進めるためには、生徒の移動手段を保護者の送迎に依存するのではなく、過疎地域や都市部といった各地域の特性に応じた最適な方法を検討し、生徒が安心して活動に参加できる環境を整備していく必要がある。
- ・ 部活動の地域展開は教員の働き方改革を実現する上で重要な取組であり、その実効性を高めるには、教員の業務範囲を明確にした上で、地域に移管できる業務を具体的に検討する必要がある。

(2) 多様な背景を持つ児童生徒への支援と教育機会の確保について

○ 児童生徒の多様な学びに寄り添う柔軟な支援を行うこと。

- ・ 学校への登校が困難な児童生徒に対し、教育支援センター等とのオンラインによる対話をもって出席と認定するなど、学びの機会を保障するための柔軟な仕組みを整備する必要がある。
- ・ 学校の課題とは別の個人の興味に基づく多様な学びにも価値を認めるといったインクルーシブな考え方を推進する必要がある。
- ・ 不登校支援においては「学びを止めない」ことが重要であり、子ども自身の「知りたい」「面白い」という純粋な意欲をいかに支え、学びに繋げていくかという視点に立った支援を推進する必要がある。
- ・ 多様な背景をもつ児童生徒一人ひとりの心理や特性について、教員が理解を深めるための機会を一層充実させる必要がある。

4 誰もが生涯を通じて学び活躍できる環境の構築について

《背景》

- ・ 生涯を通じて学び続けられるよう、多様な学習ニーズに応える機会や場の確保が重要となっている。
- ・ 文化芸術に触れる機会が、美術館や博物館といった特定の施設に限定されがちな現状を踏まえ、県民が日常生活の中でより気軽に文化芸術に親しめる機会の創出が重要となっている。
- ・ 地域の祭りや伝統芸能は、担い手の高齢化や若者の関心低下などにより、その維持・継承が大きな課題となっている。

このような背景の下、次のとおり提言する。

《提言》

(1) 多様な学びの場づくりと学びを通じた地域づくりの推進について

○ 地域の学習活動の活性化を図ること。

- ・ 地域のインフォーマルな学習活動などに対して、活動資金の援助や専門人材のマッチング支援等を行い、地域住民主体の学びの更なる活性化を図るべきである。

○ オープンマインドを育む機会の充実を図ること。

- ・ 地域住民や子どもたちの多様な価値観を受け入れる広い視野を育むために、竿燈まつりやプロスポーツチームの試合のように県外から多くの人々が集まる機会を「学びのプラットフォーム」と捉え、来訪者と交流できる場を積極的に設けていく必要がある。

(2) 文化芸術に親しむ機会の拡充と文化遺産の保存・活用について

○ 文化芸術に触れる機会の拡充を図ること。

- ・ 県の施設の外壁をキャンバスに見立てた壁画制作など、これまでの枠組みにとらわれない新たな視点から、誰もが日常生活の中で気軽に文化芸術に触れられる機会を拡充していく必要がある。
- ・ 文化芸術を県民の身近なものにすることで、作品や作者への敬意、文化財保存の意義への理解を深め、ひいては地域が誇る文化遺産を守り伝えていく気運を醸成する必要がある。

○ 社会教育施設の新たな価値の創出を図ること。

- ・ 美術館や博物館といった社会教育施設は、その専門性を活かしつつ、本来の目的を超えた多様な役割を担うことで、これまでにない新たな価値を生み出す可能性を秘めており、従来の枠組みにとらわれない運営上の工夫が必要である。

○ 地域の祭りを継承する取組の強化を図ること。

- ・ 地域の祭りを次代へ継承し、コミュニティを活性化させるため、学習活動の一環として祭りを体験させるなど、子どもたちが積極的に参加できる取組をより一層進める必要がある。